

記入年月日
令和 3 年 4 月 15 日

事務事業名		高齢者見守りネットワーク事業		事業区分		担当	
				新規/継続	継続	事務事業No.	010604000014
政策体系上の位置付け				単独/補助	単独	所属課	040501 高齢福祉課
政策体系	総合計画の施策名		0106 高齢者福祉の推進			課長名	
	政策名	01	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり			グループ	地域包括支援グループ
	施策名	06	高齢者福祉の推進			担当者名	
	手段名	04	④認知症への対応推進				
財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	単年度繰返し (平成24年度～)
	01	03	01	02	02	00	老人福祉総務事業
法令根拠	桜川市高齢者見守りネットワーク事業実施要綱						

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

(1) 事務事業の概要

手段	①事務事業の概要（事務事業の全体像）	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来るためには、身近な地域の人々との交流や日常の安否確認を通して、できるだけ早期に問題を発見し、必要な支援を迅速かつ効果的に行っていく必要がある。 高齢者見守りネットワーク事業とは、平成24年10月に市内外52事業所と9つの関係機関の協力の下に発足した事業であり、地域住民や関係機関・協力事業所の日頃からの活動や仕事のなかで、個人のプライバシーに配慮しながら、高齢者をさりげなく見守ることにより、高齢者の異変に気付いた時に、地域包括支援センターが連絡を受け、早期に対応することで高齢者の孤独死を防ぐ事業である。	①異変のあった高齢者への支援 ②協力事業所への情報提供 ③新規協力事業所の検討 ④協定調印式及び事業報告会の開催 ⑤広報掲載 ⑥ホームページ掲載

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段（担当者の活動内容）	④活動指標（活動量を表す指標）	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			（実績）	（実績）	（計画）	（目標）	（目標）
①異変のあった高齢者への支援、②協力事業所への情報提供、③新規協力事業所の検討、④協定調印式及び事業報告会の開催、⑤広報掲載、⑥ホームページ掲載	高齢者の異変に関する対応件数	件	10.00	9.00	15.00	20.00	25.00
	協定調印式及び事業報告会開催回数	回	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	協力事業所数	箇所	86.00	101.00	105.00	110.00	115.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象（誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			（実績）	（実績）	（計画）	（目標）	（目標）
異変が生じ、安否確認を要する高齢者	高齢者の異変に関する情報提供受付件数	件	10.00	9.00	15.00	20.00	25.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			（実績）	（実績）	（計画）	（目標）	（目標）
孤独死を防止する	高齢者の無事が確認できた割合	%	90.00	78.00	98.00	98.00	98.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(2) 投入量(車掌費)の推移

(3) 投入量（事業費）の推移				(実績)	(実績)	(計画)			総投入量
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0		0
			県支出金	千円	0	0	0		0
			地方債	千円	0	0	0		0
			使用料・手数料	千円	0	0	0		0
			その他	千円	0	0	0		0
			一般財源	千円	0	130	72		0
			事業費計（A）	千円	0	130	72		0
			正規職員従事人数	人	3.00人	2.00人	2.00人		

02年度事業費 実績 (千円)				03年度事業費 予算 (千円)			
10 需用費	130			10 需用費	72		
		合 計	130			合 計	72

事務事業名	高齢者見守りネットワーク事業	事務事業No.	10604000014	所属課	高齢福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
平成23年度、桜川市の高齢化率は26.6%で、将来推計において高齢化が進む見込みであり、また、65歳以上の高齢者がいる世帯においても7,691世帯と、総世帯数の56.5%を占めており、全国平均で19.2ポイント、茨城県平均でも16.4ポイントと大きく上回っていた。更に、ひとり暮らし高齢者が亡くなっているところを、近所の方等に発見されることがあり、今後ますます高齢者の孤独死が増えることが予想されることから、防止策を図るため本事業を開始した。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
広報やホームページ等で高齢者見守りネットワーク事業を知った民間業者から協力を望む声が寄せられている。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	☒ 結びついている 高齢者をさげなく見守りながら、早期に異変を発見し対応することは、孤独死対策につながり、高齢者福祉の推進に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	☒ 妥当である 地域や市内外の事業所でネットワークを構成し、高齢者の見守りに取り組むことから、市で行うことは妥当である。
有効性	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	☒ 向上余地がある 高齢者の孤独死を防止する事業であるため、本来成果を見る事業ではないが、協力事業所との情報交換を密にすることで、成果の向上余地はある。
	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	☒ 影響有 高齢者が安心して地域で生活を送れなくなり、高齢者の孤独死対策が衰退してしまう。
効率性	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む))
	(他に手段がある場合) ☒ 具体的な手段、事務事業名
	☒ 余地がない 類似事業はない。
	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
公平性	☒ 削減余地がない 市内外の事業所による善意で事業が実施されているため、削減余地はない。
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
☒ 公正・公平である 市内の不特定多数の高齢者を、無償でさげなく見守る事業であるため受益者は公平・公正である。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	高齢者の異変に関する情報提供が計9件あり、素早く安否確認を行い、高齢者の無事を確認したが、うち2件についてはすでに死亡していた。死亡後早い段階で発見できたため、親族にも迅速に連絡を取り対応した。また、通報が早かったため、早期発見につながったケースもあった。																					
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☐ 現状維持 ☐ 廃止 ☐ 休止		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☒ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 協力事業者との情報交換を密にする。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			○																			
	維持			×																			
	低下		×	×																			
		(6) 事務事業優先度評価結果																					
		成果優先度評価結果 ③																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 ☒ B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 ☐